原坦山（はらたんざん）　僧侶。文政二年十月十八日陸奥國磐前郡平村生れ、明治二十五年七月二十七日歿（一八一九～九二）。舊姓新井、諱覺仙、字坦山、幼名良作。號鶴巣。天保四年昌平坂學問所に入り儒學を修めた。十一年多紀安叔塾で醫術を學ぶ。弘化元年駒込吉祥寺の栴檀林、小石川傳通院學寮等で漢籍を講じた。のち發心して出家。京白川心照寺住職、轉じて岩城長徳寺住職。明治五年教部省教導職、更に大講義となるも、管長にその性情を嫌厭せられて曹洞宗の僧籍を奪はれ、淺草で易者を營む。その後西本願寺法主大谷光尊の知遇を得、その名を學者貴顯の間に知られるに至った。十一年總長加藤弘之の聘を受け、東京大學印度哲學科初代講師に任じ、翌年僧籍に復して相州最乘寺住職、十八年學士院會員、二十四年曹洞宗大學林總監となる。

著書に『心性實驗錄』（名西學辨解）（明治六年九月學要舍藏板、淺倉久兵衛發兌）、『鶴巣集』（明治十七年四月二十日佛仙社）、『禪學心性實驗錄』（荒木儀天編、明治四十年二月二十二日井洌堂）等。